



CEAS3.0.9 インストールの手引き (OS:Windows)

内容

1. はじめに
2. JDK と Tomcat のインストール
3. CEAS3.0.9 の配置
4. DBMS のインストール
5. CEAS 用データベースの作成
6. 設定ファイルの編集
7. 動作確認とサンプルデータの設定
8. その他

付録 1 CEAS 環境設定ファイル

付録 2 CEAS Core1 パッケージ構成一覧

付録 3 CEAS 基本データ入力フォーマット(3 系)

作成	2008/01/07
改定	2009/06/06
最終更新	2009/06/17

1. はじめに

本ドキュメントでは新規に CEAS3.0.9 の導入を行う場合を想定しています。本ドキュメントの手順により CEAS3.0.9 を動作させるために必要なソフトウェア及び CEAS3.0.9 のインストールができます。なお、インストールの所要時間は約 1 時間です。

1.1 インストールする各種ソフトウェア

ソフトウェア名	説明
CEAS3.0.9	CEAS3.0.9 のソースファイル
JDK	Java 実行環境
Tomcat	JSP, Servlet 実行用 WEB サーバ
MySQL	データベース管理システム (DBMS)

1.2 インストールの準備

■ インストールに必要な機器と資料の準備

- Windows の OS がインストールされたマシン
- つぎの OS へのインストールは確認できています。

Windows 2000 Professional, Windows XP Professional
 Windows Vista HomePremium, Windows Vista Business

- zip 形式の圧縮ファイルを解凍できるソフトウェアをインストールしていること
- CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.9 インストールセット (CEAS3.0.9.zip)
- CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.9 インストールメモ (CEAS3.0.9_installation_guide_Windows.jp.pdf)

■ CEAS Community Page からダウンロードした CEAS3.0.9.zip を解凍し、内容が次のとおりであることを確認してください。

- インストールセットのファイル構成

<pre> CEAS3.0.9 ├── Core1.war ├── PropertiesEditor.jar ├── Windows │ ├── configure_db.bat │ ├── configure_ceas.bat │ ├── win.bat │ ├── software │ │ ├── apache-tomcat-6.0.18.exe │ │ ├── jdk-1_5_0_14-windows-i586-p.exe │ │ └── mysql-essential-5.0.45-win32.msi │ ├── sample │ │ └── createdb.sql │ └── src └── Linux ├── software │ ├── apache-tomcat-6.0.18.tar.gz │ ├── jdk-1_5_0_14-windows-i586.bin │ └── postgresql-8.1.10.tar.gz ├── sample │ └── createdb.sql </pre>	<p>[インストールセットフォルダ] CEAS3.0.9 ソースファイル 設定ファイルエディタ</p> <p>データベース接続設定編集バッチファイル CEAS3.0.9 設定編集バッチファイル MySQL 接続用ソース適用バッチファイル Windows にインストールするソフトウェア一式</p> <p>サンプルデータ設定用</p> <p>MySQL 接続用ソースファイル</p> <p>Linux にインストールするソフトウェア一式</p> <p>サンプルデータ設定用</p>
--	---

以降、解凍したフォルダ (CEAS3.0.9) を **[インストールセットフォルダ]** と呼びます。

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

- CEAS3.0.9_installmemo_Windows.pdf (このドキュメント) を参照しながらインストール作業を開始してください。

1.3 インストール時に問題が発生した場合

インストールの際に不明な点や問題が発生した場合は、CEAS Community Page の TOP ページの「CEAS に関して」メニューにある「掲示板」にてお問い合わせ下さい。

CEAS Community Page はこちら ⇒ <http://ceascom.iecs.kansai-u.ac.jp/>

2. JDK と Tomcat のインストール

2.1 環境変数の設定

(1) 環境変数の設定画面まで

- Windows 2000 の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら、詳細タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

- Windows XP の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら、詳細設定タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

- Windows Vista の場合

スタートメニュー>マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択します。ウインドウが表示されたら左側にあるシステムの詳細設定をクリックします。ウインドウが表示されたら、詳細設定タブを選択し、環境変数ボタンをクリックします。

(2) 環境変数の追加

環境変数ウインドウが表示されたら、システムの環境設定を行います。以下の環境変数を設定してください。

変数名	変数値
JAVA_HOME	C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14
PATH	;%JAVA_HOME%¥bin <=追加する
CLASSPATH	.;%JAVA_HOME%¥lib¥tools.jar
TOMCAT_HOME	C:¥usr¥local¥Tomcat6.0

※パスに半角空白などが入ると予期せぬ不具合が起こる可能性があります。そのため、Tomcat などはデフォルトでは「Tomcat 6.0」と空白が入っていますが、このインストールメモでは「Tomcat6.0」とし、半角空白を入れないようにしています。

以降、

JDK インストール先 (C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14) を [JAVA_HOME]

Tomcat インストール先 (C:¥usr¥local¥Tomcat6.0) を [TOMCAT_HOME]

と呼びます。

2.2 JDK のインストール

(1) JDK のインストール

JDK の ファ イ ル ([イ ン ス ト ー ル セ ッ ト フ ォ ル ダ]¥Windows¥software¥jdk-1_5_0_14-windows-i586-p.exe) をダブルクリックし、インストーラを起動します。

インストール先は[JAVA_HOME] (C:¥usr¥local¥Java¥jdk1.5.0_14) にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。

(2) JRE のインストール

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

JDK のインストールが終了すると、自動的に JRE のインストールが始まります。

インストール先は C:\usr\local\Java\jre1.5.0_14 にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。

(3) JDK の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>アクセサリ>コマンドプロンプトを実行します。

『java』と入力して Enter キーを押し、以下のようなメッセージが表示されておらず、Java コマンドのヘルプメッセージが表示されていればインストールは成功しています。

'java' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。

また、『javac』と入力して Enter キーを押し、以下のようなメッセージが表示されておらず、Java コマンドのヘルプメッセージが表示されていれば環境変数の設定も成功しています。

'javac' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。

※もし上記のようなメッセージが表示された場合は、[2.1.1.](#)に戻り、環境変数の設定を見直してください。それでも表示される場合は、一度 PC を再起動してみてください。

2.3 Tomcat のインストール

(1) Tomcat のインストール

Tomcat の ファイル ([インストールセットフォルダ]\Windows\software\apache-tomcat-6.0.18.exe) をダブルクリックし、インストーラを起動します。

インストール先は[TOMCAT_HOME] (C:\usr\local\Tomcat6.0) にし、それ以外はインストーラの指示に従ってインストールしてください。^{注)}

注) [TOMCAT_HOME]\conf\tomcat-users.xml 1行目 encoding を utf-8 に修正すること

(2) SSL コネクタの有効化

[TOMCAT_HOME]\conf\server.xml をメモ帳などのテキストエディタで開き、以下の箇所を修正してください。

- ・ 69 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 81 行目：<!-- を削除.
- ・ 82 行目：8443 を 443 に変更.
- ・ 85 行目：-->を削除.
- ・ 88 行目：8443 を 443 に変更.

(3) 鍵の作成

[インストールセットフォルダ]\Windows\ssl.bat をダブルクリックしてください。コマンドプロンプトが起動しますので、以下のように入力してください。

赤字のところは適宜変更してください。

キーストアのパスワードを入力してください: **changeit**

姓名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

組織単位名を入力してください。

[Unknown]: **Information Systems Engineering Laboratory**

組織名を入力してください。

[Unknown]: **kansai-u**

都市名または地域名を入力してください。

[Unknown]: **Suita**

州名または地方名を入力してください。

[Unknown]: **Osaka**

この単位に該当する 2 文字の国番号を入力してください。

[Unknown]: **JP**

CN=yamada, OU=JAVA Developer, O=Sbp, L=Akasaka, ST=Tokyo, C=JP でよろしいですか?

[no]: **yes**

<tomcat> の鍵パスワードを入力してください。

(キーストアのパスワードと同じ場合は RETURN を押してください): **changeit**

(4) Tomcat の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>Apache Tomcat 6.0>Monitor Tomcat を実行*します. 画面右下のタスクトレイに Tomcat のアイコンが表示されるので, 右クリックし, Start service を選択します.

ブラウザで <http://localhost:8080/> にアクセスし, Tomcat の画面が表示されればインストールは成功しています.

また, <https://localhost:443/> にアクセスし, Tomcat の画面が表示されれば SSL の設定も成功しています.

※SSL でアクセスした場合, 「証明書エラー」という画面が表示されますが, 動作上は問題ありません. IE の場合は「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)」をクリックするとページが遷移します. FireFox の場合は例外に追加することで表示されるようになります.

なお, 本格的に運用する場合には, SSL 設定の書籍などを参考に, 第 3 者による証明書の発行を行ってください.

※Windows Vista の場合は, 事前に以下の設定が必要です.

[TOMCAT_HOME]¥bin¥tomcat6w を右クリックし, プロパティを選択します. 互換性タブを選択し,

管理者としてこのプログラムを実行する
にチェックを入れて, OK ボタンを押します.

3. CEAS3.0.9 の配置

(1) Tomcat を一旦停止します.

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし, Stop service を選択してください.

(2) [インストールセットフォルダ]¥Core1.war を [TOMCAT_HOME]¥webapps フォルダにコピーします.

(3) Tomcat を起動します.

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし, Start service を選択してください.

CEAS3.0.9 のソースコードを展開し Tomcat に配置するのに時間がかかります. 30 秒ほど時間を置いてください.

(4) Tomcat を一旦停止します.

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし, Stop service を選択してください

4. DBMS のインストール

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

ここではMySQL をインストールします。

(1) MySQL のインストール手順

MySQL の ファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥software¥mysql-essential-5.0.45-win32.msi) をダブルクリックし、インストーラを起動します。インストール画面では以下のように指定してください。

- Setup Type
Custom を選択し Next ボタンをクリック。
- Custom Setup
Change ボタンをクリックし、インストール先を下記のように設定してください。
C:¥usr¥local¥MySQL¥MySQL5.0
Next ボタンをクリックしてください。
- Install ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

(2) MySQL の設定

インストール終了画面になると、

Configure the MySQL Server now

と表示されるのでチェックを入れ、Finish ボタンをクリックすると、設定画面が表示されます。

(設定画面が表示されない場合は、スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Server Instance Config Wizard を選択してください。)

設定画面では以下のように設定してください。

- Please choose a maintenance option.
Reconfigure Instance を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select a configuration type.
Detailed Configuration を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select a server type.
個人の PC で利用する場合は Developer Machine、サーバで利用する場合は Server Machine を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select the database usage.
Multifunctional Database を選択し、Next ボタンをクリック。
- Please select the drive for the InnoDB datafile, ...
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the approximate number of concurrent ...
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the networking options.
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please select the default character set.
Manual Selected Default Character Set / Collation を選択し、utf8 を選択し、Next ボタンをクリック。
※国際化対応のため、CEAS では文字コードはすべて UTF-8 に統一しています。
- Please set the Windows options.
初期選択のまま Next ボタンをクリック。
- Please set the security options.
 Modify Security Settings のチェックをはずし、Next ボタンをクリック。
- Execute ボタンをクリックすると設定は完了です。

(3) MySQL の動作確認

スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Command Line Client を実行すると以下のように表示されます。

```
Enter password:
```

何も入力せずに Enter キーを押してください。下記のように表示され、コマンド入力待ち状態になっていればインストールは成功しています。

```
mysql>
```

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

以下のコマンドを入力し、MySQL Command Line Client を終了します。

```
mysql> ¥q
```

(4) MySQL 接続用ソースの適用

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥win.bat をダブルクリックしてください。自動的に MySQL 接続用ソースが適用されます。

※上書きしますか? と表示された場合は、 a と入力し Enter キーを押してください。
以下のように表示されたら Enter キーを押してください。

```
[info ] Finish.
```

続行するには何かキーを押してください . . .

※以下のように表示された場合は 2.1 の環境変数の設定, 3. の CEAS3.0.9 の配置の手順を再度確認してください。

```
[error] Not found "Core1" directory.
```

続行するには何かキーを押してください . . .

5. CEAS 用データベースの作成

CEAS で利用するデータベースの作成と管理者ユーザ (履修環境管理者) の登録を行います。

(1) データベース作成スクリプトファイルを C:¥ にコピーします。

データベース作成用スクリプトファイル ([インストールセットフォルダ]¥Windows¥sample¥createdb.sql) を, C:¥ にコピーしてください。

(2) MySQL を起動します。

スタートメニュー>すべてのプログラム>MySQL>MySQL Server 5.0>MySQL Command Line Client を実行すると以下のように表示されます。

```
Enter password:
```

何も入力せずに Enter キーを押してください。

(3) データベースを作成し、履修環境管理者ユーザを登録します。

```
mysql> source C:¥createdb.sql
```

(4) つぎのコマンドを入力し、MySQL Command Line Client を終了します。

```
mysql> ¥q
```

6. 設定ファイルの編集

(1) データベース接続設定の編集

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥configure_db.bat をダブルクリックしてください。しばらく待つと、設定ファイル編集用のエディタが起動します。

以下のように変更してください。

```
#PostgreSQL
#driverClassName=org.postgresql.Driver
#url=jdbc:postgresql://localhost:5432/CEASCOREDB
#username=postgres
#password=postgres
#MySQL
driverClassName=com.mysql.jdbc.Driver
url=jdbc:mysql://localhost:3306/ceascoredb?characterEncoding=utf8
```

```
username=root
password=
```

プロパティエディタの `ファイル>Unicode` で保存を選択し、変更を保存してください。保存したらプロパティエディタを終了してください。(コマンドウインドウが自動で終了しない場合は、×ボタンをクリックし手動で終了させてください。)

※設定ファイル編集用エディタが起動せず、以下のように表示された場合は 2.1 の環境変数の設定、3. の CEAS3.0.9 のインストールの配置手順を再度確認してください。

```
[error] Not found "Core1" directory.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

(2) CEAS 環境設定ファイルの編集

[インストールセットフォルダ]¥Windows¥configure_ceas.bat をダブルクリックしてください。しばらく待つと、設定ファイル編集用のエディタが起動します。付録1の「CEAS 環境設定ファイル」を参考にし、必要ならば環境設定ファイルを編集してください。CEAS3.0.9 を動作させるだけならば、設定を編集する必要は特にありませんが、必ず確認するようにしてください。

編集が完了したらプロパティエディタの `ファイル>Unicode` で保存 を選択し、変更を保存してください。

保存したらプロパティエディタを終了してください。(コマンドウインドウが自動で終了しない場合は、×ボタンをクリックし手動で終了させてください。)

※設定ファイル編集用エディタが起動せず、以下のように表示された場合は 2.1 の環境変数の設定、3. の CEAS3.0.9 のインストールの手順を再度確認してください。

```
[error] Not found "Core1" directory.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

7. 動作確認とサンプルデータの設定

7.1 CEAS3.0.9 の動作確認

(1) Tomcat を起動します。

画面右下タスクトレイの Tomcat のアイコンを右クリックし、Start service を選択してください。

(2) CEAS のログインページへアクセスし、管理者権限でログインします。

ブラウザで <https://localhost/Core1/faces/index.jsp> にアクセスしてください。

CEAS のログイン画面が表示されたら ID に ceasmgr、パスワードに ceaspass と入力し、ログインボタンをクリックしてください。ログインでき、管理者のトップ画面が表示されれば CEAS3.0.9 のインストールおよびデータベースの作成は成功しています。

※SSL を使用しない場合は <http://localhost:8080/Core1/faces/index.jsp> にアクセスしてください。

※初回アクセス時は JSP ファイルのコンパイルのため、画面の表示に時間がかかります。

7.2 サンプルデータの登録と確認

7.2.1 ユーザのサンプルデータ登録

(1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの「ユーザリスト読込」を選択してください。

(2) ユーザリスト読込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_ud.csv、ファイルの種類は すべてのファ

イル としてください。

- (3) sample_ud.csv をアップロードします。ユーザリスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_ud.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。ユーザのサンプルデータが登録されます。
- (4) ユーザリスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション (黒いベルト) の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

7.2.2 科目のサンプルデータ登録

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目リスト読み込みを選択してください。
- (2) 科目リスト読み込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_cd.csv、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) sample_cd.csv をアップロードします。科目リスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_cd.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。科目のサンプルデータが登録されます。
- (4) 科目リスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション (黒いベルト) の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

7.2.3 科目担任関連リスト読み込み

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目担任関連リスト読み込みを選択してください。
- (2) 科目担任関連リスト読み込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_ca.csv、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) sample_ca.csv をアップロードします。科目担任関連リスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_ca.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。科目担任のサンプルデータが登録されます。
- (4) 科目担任関連リスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション (黒いベルト) の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

7.2.4 履修情報リスト読み込み

- (1) 管理者 TOP ページ左のメニューより、一括登録用メニューの科目履修関連リスト読み込みを選択してください。
- (2) 履修情報リスト読み込み画面上部中央にある、CSV ファイルサンプル ボタンをクリックしてください。サンプルファイルのダウンロードが始まりますので、デスクトップなど適当な場所に保存してください。その際、ファイル名は sample_ce.csv、ファイルの種類は すべてのファイル としてください。
- (3) sample_ce.csv をアップロードします。履修情報リスト読み込み画面下部にある、参照ボタンをクリックし、(3)で保存した sample_ce.csv を選択します。アップロードボタンを押して画面が遷移したら、登録ボタンを押してください。履修情報のサンプルデータが登録されます。
- (4) 履修情報リスト読み込み画面上部にあるグローバルナビゲーション (黒いベルト) の メインメニューをクリックし、管理者 TOP ページに戻ってください。

7.3 サンプルデータの確認

- (1) ブラウザで <https://localhost/Core1/faces/index.jsp> にアクセスしてください。CEAS のログイン画面が表示されます。

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

- (2) ID に ceasmgr, パスワードに ceaspass と入力してください. 管理者のトップ画面が表示されていることを確認してください.
- (3) ID に t00001, パスワードに 44444444 と入力してください. 担任者のトップ画面が表示されていることを確認してください.
- (4) ID に gh00001, パスワードに 11111111 と入力してください. 学生のトップ画面が表示されていることを確認してください.

以上が確認できれば設定は完了です.

8. その他

8.1 アップロードするファイルの文字コードについて

リスト読み込み機能の CSV ファイルなどのファイルは, 文字コードを「**UTF-8**」に統一するようにしてください.

その際, UTF-8 の CSV ファイルは Excel では文字化けするため編集・保存できません.

また, メモ帳でも UTF-8 のファイルを編集・保存しないようにしてください. ファイルの始めに BOM という見えないデータが付加されるため, CEAS で読み込むことができなくなります.

「TeraPad」や「秀丸」など, 文字コードを指定して編集できるエディタで編集してください.

8.2 ログイン画面のタイトル・画像の変更方法について

ログイン画面上部にあるタイトル・画像を編集することが可能です. 詳細な方法は CEAS Community Page の CEAS 導入ガイドより「CEAS3 系ログイン画面カスタマイズ手順書」をダウンロードし, 参照してください (ダウンロードにはログインが必要です).

付録 1

CEAS 環境設定ファイル (customConfiguration.properties)

```
#####
##### ユーザが編集する定数 #####
##### ※DB の設定は WEB-INF>dataSource.properties #####
#####
#CEAS index ページ アドレス
#備考：メールなどにリンクとして記載される
CUSTOM_CEASLOGINLINK=http://localhost:8080/Core1/faces/index.jsp
#SSL 利用の場合はこちら↓
#CUSTOM_CEASLOGINLINK=https://localhost/Core1/faces/index.jsp

#メールサーバホスト
#備考：メール機能を使う場合は必要
CUSTOM_SMTPHOST=localhost

#出席送信許可 IP
#備考：0 から始まる連番とすること
CUSTOM_ATTENDANCEIP0=192.168.0.*
CUSTOM_ATTENDANCEIP1=
CUSTOM_ATTENDANCEIP2=
CUSTOM_ATTENDANCEIP3=
CUSTOM_ATTENDANCEIP4=
#不正アクセス対策 1 一定時間 (分) 内に同一アカウントが一定回数以上のログインに失敗した時
#FLG1 0...無効、1...有効
#TIME1 一定時間 (分)
#COUNT1 同一アカウントのログイン失敗回数 (回)
CUSTOM_ILLEGALACCESSFLG1=0
CUSTOM_ILLEGALACCESSTIME1=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSCOUNT1=10

#不正アクセス対策 2 一定時間 (分) 内に同一 IP アドレスから一定回数以上ログインがあった時
#FLG2 0...無効、1...有効
#TIME2 一定時間 (分)
#COUNT2 同一 IP のログイン回数 (回)
#PERIOD2 アクセスを拒否する時間 (分)
CUSTOM_ILLEGALACCESSFLG2=0
CUSTOM_ILLEGALACCESSTIME2=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSCOUNT2=10
CUSTOM_ILLEGALACCESSPERIOD2=720

#名列番号を切り取って表示するための開始位置と終了位置
```

CEAS3.0.9 インストールの手引き (Windows)

```
#ex.) NAMENOPREFIXSTARTNO=0, NAMENOPREFIXENDNO=13
# 「01234567890123 シス 00-01 関大太郎」 → 「シス 00-01 関大太郎」と表示される
#備考：使わない場合はどちらも 0 にすること
CUSTOM_NAMENOPREFIXSTARTNO=0
CUSTOM_NAMENOPREFIXENDNO=13

#####
## これ以降は必要があれば変更すること ##
#####
#科目に設定する授業回数の最大値(回)
#備考：デフォルト値は 50
CUSTOM_MAXCLASSESSIONCOUNT=50

#科目に設定するグループフォルダ数の最大値(回)
#備考：デフォルト値は 50
CUSTOM_MAXGROUPFOLDERCOUNT=50

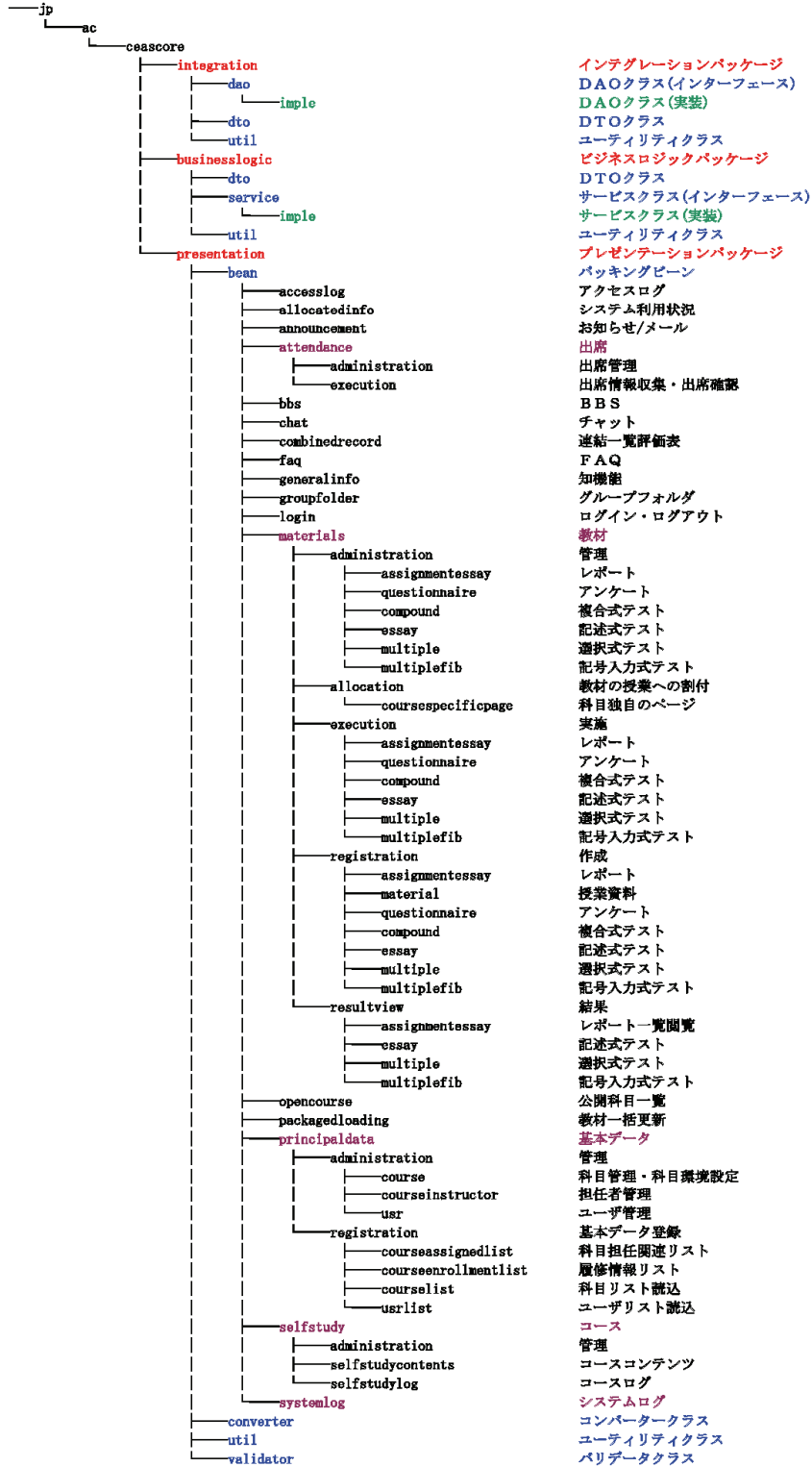
#お知らせ等の「new」の表示期間(ミリ秒)
#ex.) 3 日間=3*24*60*60*1000=259200000 (ミリ秒)
CUSTOM_NEWCHECKTIME=259200000

#レポートフィードバック使用時の最大提出可能枚数
#備考：デフォルト値は 30
CUSTOM_MAXIMUMREPORTCOUNT=30
```

付録 2

【作成日】 8/21/2006 【更新日】 6/16/2009

CEAS Core1 パッケージ構成一覧



付録3

2009.5.25

CEAS基本データ入力フォーマット(3系)

ud ユーザ

No	項目名	必須	文字数	内容	備考
1	識別子コード	○	2	「ud」固定	
2	ステータスフラグ	○	1	1:登録、2:更新、3:論理削除、4:物理削除、6:名列順のみ更新	GUIからの一括登録で「6:名列順のみ更新」は未実装(現状バッチのみ対応)
3	アカウント	○	64	半角英数字のみ	
4	パスワード	○	128	半角英数字のみ、6文字以上	
5	名列番号順	○	128	履修者リストの表示順序などに使用	
6	氏名(漢字)	○	64	全角で32文字以下	
7	氏名(カナ)		64	全角で32文字以下	
8	管理権限	○	1	1:履修環境管理者、2:担任者、3:学生	
9	性別		1	1:男、2:女	0で性別不明、空欄可
10	生年月日		8	yyyymmdd形式	
11	e-mail		256		
12	移動コード		1	4:休学、5:退学、6:除籍、7:転出、8:卒業	
13	移動日		8	yyyymmdd形式	
14	有効日		8	yyyymmdd形式	指定した日付から有効になる訳ではない

cd 科目データ

No	項目名	必須	文字数	内容	備考
1	識別子コード	○	2	「cd」固定	
2	ステータスフラグ	○	1	1:登録、2:更新、3:論理削除、4:物理削除	
3	科目コード	○	128	半角英数字のみ	
4	科目名称	○	64	全角で32文字以下	
5	年度	○	4	西暦4桁	
6	学期	○	1	0:指定なし、1:春、2:夏、3:秋、4:冬、5:前期、6:後期、7:集中、8:通年、9:その他	
7	学科		64	全角で32文字以下	
8	担任者名		128		
9	曜日		1	1:月、2:火、3:水、4:木、5:金、6:土、7:日、0:設定なし	CEAS2系では8:設定なし
10	時限		1	1:1時限、2:2時限、3:3時限、4:4時限、5:5時限、6:6時限、7:7時限、8:8時限、0:設定なし	CEAS2系では9:設定なし
11	有効日		8	yyyymmdd形式	

ca 科目担任データ

No	項目名	必須	文字数	内容	備考
1	識別子コード	○	2	「ca」固定	
2	ステータスフラグ	○	1	1:登録、3:論理削除、4:物理削除	
3	アカウント	○	64	半角英数字のみ	
4	科目コード	○	128	半角英数字のみ	
5	年度	○	4	西暦4桁	
6	学期	○	1	0:指定なし、1:春、2:夏、3:秋、4:冬、5:前期、6:後期、7:集中、8:通年、9:その他	
7	有効日		8	yyyymmdd形式	

ce 科目履修データ

No	項目名	必須	文字数	内容	備考
1	識別子コード	○	2	「ce」固定	
2	ステータスフラグ	○	1	1:登録、3:論理削除、4:物理削除	
3	アカウント	○	64	半角英数字のみ	
4	科目コード	○	128	半角英数字のみ	
5	年度	○	4	西暦4桁	
6	学期	○	1	0:指定なし、1:春、2:夏、3:秋、4:冬、5:前期、6:後期、7:集中、8:通年、9:その他	
7	有効日		8	yyyymmdd形式	